

小学部低学年〇〇グループ 教科別の指導「音楽」学習指導案

日時 令和〇年〇月〇日 (〇)  
〇〇:〇〇~〇〇:〇〇  
場所 音楽室  
指導者 〇〇 〇〇 (T1)  
他8名

1 題材名 「きれいな音を ひびかせよう ～すてきな にじいろ ハーモニー～」

2 題材設定の理由

(1) 児童観

省略

(2) 題材観

今年度はこれまで、器楽の活動として、カスタネットや鈴（『手と手と手と』作詞作曲：二本松はじめ）、和太鼓（『げんき太鼓』作詞作曲：町田浩志）といった打楽器に取り組んできた。いずれも①節奏・楽曲・楽器の魅力によって児童の気持ちを活動に惹きつけること。②各自が自由に楽器に触れて音を出してみる時間を十分に確保すること。③一曲の中に、「待つ（聴く）時」と「演奏する時」をつくり、期待感をもって「演奏する時」がくるのを待ちながら音楽に耳を傾けられるようにすること、の三点を意識して取り組んだ。小物打楽器は「手に持った楽器を肩にあてて待つ姿勢」、和太鼓では「バチを肩にあてて待つ姿勢」を“かまえのポーズ”と決め、「かまえ！」の合図があつたら、自由に音を出すことをやめてT1に注目するよう促した。小低のうちに「自分からたくさん楽器に関わり、自分なりの表現でのびのびと演奏する楽しさ」と「自分の生み出す音が自分一人の音として完結するのではなく、伴奏や周りの人の音と一緒に広がっていくことのおもしろさ」を数多く経験していることが、今後、合奏の活動を充実・発展させていくための大切な土台になると考える。そのため、毎時間の授業の中で、自由に楽器に関わる楽しさだけでなく、“かまえのポーズ”で待ちながら期待感をもって伴奏に耳を澄ましたり、教師の合図を手がかりにしてそれに合わせて演奏したりする体験を大切にしてきた。回を重ねる中で、「かまえ！」のポーズをきっかけに気持ちを切り替え、T1の動きや音楽にタイミングを合わせて演奏しようとする児童が増えてきた。

そうした活動経験を生かし、「期待感をもって自分から楽器と関わるとともに、音楽や楽器の音色に耳を澄まし、教師や友達と一緒にタイミングを合わせて楽器を演奏する合奏体験を広げたい」という思いから、本題材を設定した。

今回合奏で使う有音程の打楽器デスクベルは、ベル上部のボタン部分をたたけばすぐに安定した音を響かせることができること、机上に置いて使用するため（ハンドベルと異なり）持っているだけで音が鳴ってしまうということがないこと、単音楽器であるため一人ずつ（一音ずつ）の音を組み合わせることで簡単に和音をつくることができること、といった点で、児童の実態と今回のねらいに適した楽器である。一人一音ずつ（「ド」「ミ」「ソ」の音のいずれかの音を）担当し、グループ全体として「ドミソ」の和音を響かせることで、友達と一緒に活動すると音が膨らみ心地よい和音の響きを生み出すことができるということを体感できるようにしたい。

合奏する曲『にじいろハーモニー』は、本題材のために作ったオリジナルソングである。児童が演奏する「ドミソ」の和音に合うメロディーが繰り返され、かつ、これまで取り組んでき

た『てとてとと』や『げんき太鼓』の楽曲と同様に 前半：“かまへのポーズ” で待つ（聴く）部分、後半：演奏する部分という曲の構成になるように作曲した。『にじいろハーモニー』は、11月に行われる全校行事おおぞら祭の小低ステージ発表において本グループが発表する活動であり、身体表現『世界一のピース』は小低全員で踊るダンスである。

### (3) 指導観

<授業全体を通して>

4月から、授業中は言葉かけでの指示をできるだけ減らし、気持ちを切り替えたり、次の活動に気付いたり、次の活動の心の準備をしたりするための支援の手立てとして、音や音楽を活用することを心がけてきた。活動と活動の間は、小さな音でピアノを弾いたり次に扱う楽器の音色を紹介したりして、音や音楽でつなぐ。CDも利用するが、その時々の子どもの状況に合わせるためには、生演奏が有効である。活動と活動をつないだり、子どもの気持ちを次の活動へとつないだり切り替えたりするための手立てとして、生演奏を有効活用したい。一人一人の子どもの表情や動きを見ながら伴奏できるように、合奏活動時は演奏する子どもの目の前にキーボードを置いて伴奏する。

<期待感をもって、自分から楽器と関わるために>

『にじいろハーモニー』は、1番はド（赤いベル）の音、2番はミ（黄色いベル）の音、3番はソ（水色ベル）の音が順に演奏し、最後に全員で一緒に演奏して「ドミソ」の和音を響かせる構成になっている。子どもはそれぞれ、担当する音ごとに赤チーム・黄色チーム・水色チームに分かれ、自分が担当する音の出番までは布ベンチに座って待つこととする。他のチームが演奏している時はベンチに座ってリラックスして待ち、自分の担当する場面になったら立ち上がって一歩前に行くことで、「次は自分の出番だ！」と気持ちを高めて意欲をもって演奏に取り組めるようにしたい。

<教師や友達と一緒にタイミングを合わせて演奏するために>

『にじいろハーモニー』は、子どもの活動そのものを歌詞にしている。

ほら 耳をすましてごらん  
すてきな音が きこえるよ  
最初は 赤いベルの音  
赤いベルを たたこうよ…

「しっかり聴きましょう」と言葉かけする代わりに、ほら耳をすましてごらん と歌い、「最初は、赤いベルをたたきますよ」と指示する代わりに、赤いベルをたたこうよ と歌う。言葉かけでの指示ではなく、歌うことで「今は（次は）どのチームが演奏する時か」を伝えることができるように作ってある。大人が中心になって歌いながら楽しい雰囲気をつくり、歌を聴くことで、子どもが自分で気付いて活動に取り組めるようにしていきたい。

特別支援学校学習指導要領、小学部音楽科の目標にある「音や音楽に楽しく関わり、協働活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う」ことに迫るためには、まずは子ども一人一人が、自分が心地よいと感じる音楽や音楽表現を見つけ、音楽に親しみ、主体的に関わっていけるようにすることが大切である。その上で、音や音楽を通したやりとりの中で、複数の音が重なることで広がる表現のおもしろさに気付いたり、一緒にひとつの音楽に関わっているという一体感を味わったりすることができるようにしていきたい。教

師や友達と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもち、そこで得た経験をおおぞら祭ステージ発表という場で多くの人に見てもらふことで、一人一人のさらなる意欲や自信に結びつけていきたい。

### 3 題材の目標（共通目標）

- ・拍を意識し、教師の合図や伴奏にタイミングを合わせてベルをたたくことができる。（知識及び技能）
- ・自分の担当する音が分かり、「待つ（聴く）時」と「演奏する時」を区別して合奏することができる。  
（思考力・判断力・表現力等）
- ・期待感をもって、自分から楽器に関わり、演奏することができる。（学びに向かう力・人間性等）
- ・教師や友達と一緒に活動することに興味をもち、おおぞら祭のステージ練習に進んで取り組むことができる。  
（学びに向かう力・人間性等）

### 4 指導計画 「器楽」（本時 3 / 8 音楽の授業 4 時間 + 体育館でのステージ練習 4 時間）

次	主な学習内容	ねらい	時間
1	新しい楽器と曲に親しもう	・ベルの音色や演奏の仕方を確認する。	1
②	タイミングを合わせて演奏しよう	・自分の担当する音と、演奏する順番が分かる。 ・拍を意識してベルをたたく。	3 (本時)
3	体育館で練習しよう おおぞら祭ステージ練習	・拍（や休符）を意識してベルをたたく。 ・おおぞら祭に向けて、会場や舞台に慣れる。 ・小低ステージ発表の流れが分かる。	4

### 5 抽出児童の実態

氏名(記号)	生活全般の実態	授業に関わる実態
A 1年生 赤いベル 前半(予定)	省略	省略
B 2年生 水色ベル 前半	省略	省略

### 6 本時の学習

#### (1) 共通目標

- ・拍を意識し、教師の合図や伴奏に合わせてベルをたたく。（知識・技能）

#### (2) 抽出児童の個人目標

児童	目標
A	教師の身体支援（拍に合わせて背中をやさしくたたく）を受けながら、拍を意識してベルをたたくことができる。
B	教師の言葉かけを受けながら、T2の見本に注目し、拍（休符も含む）を意識してベルをたたくことができる。

#### (3) 展開

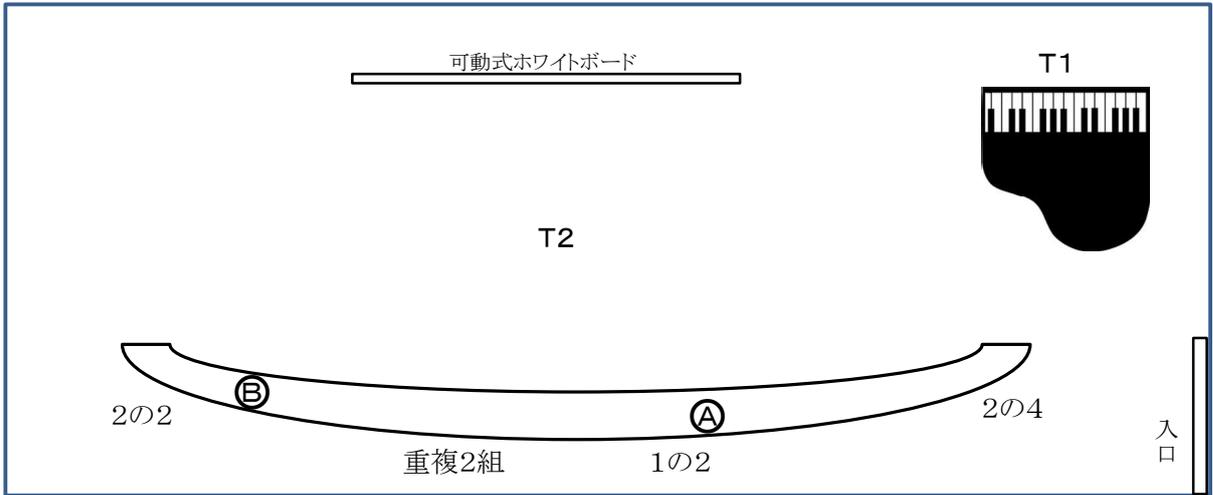
別紙の通り

7 評価

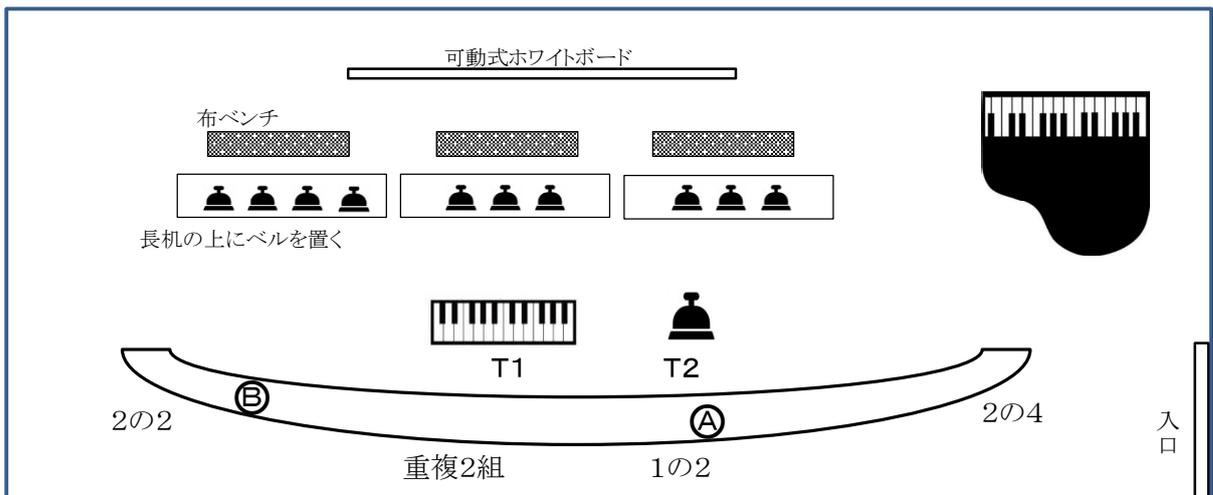
- (1) 支援(展開に記載)を手がかりに、共通目標を達成できたか、又は目標に近づくことができたか。  
 (2) 支援(展開に記載)を手がかりに、個人目標を達成できたか、又は目標に近づくことができたか。

8 備考

<配置図① 挨拶、『うたおう・やまびごっこ』、『世界一のピース』、鑑賞>



<配置図② 『にじいろハーモニー』>



<使用楽器等>

- ・デスクベル
- 器楽活動時 「ド」×4  
「ミ」×4  
「ソ」×5
- 鑑賞時 「ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ」  
各1
- ・キーボード
- ・CDデッキ
- ・CD『世界一のピース』
- ・長机 3

『にじいろハーモニー』 作詞・作曲 指導者T1

ほら 耳をすましてごらん  
すてきな音が きこえるよ

最初は 赤いベルの音  
赤いベルを たたこうよ  
きらきら音がする きらきら音がする  
きらきら音がする きらきら音がする

次は 黄色いベルの音  
黄色いベルを たたこうよ  
きらきら音がする きらきら音がする  
きらきら音がする きらきら音がする

次は 水色ベルの音  
水色ベルを たたこうよ  
きらきら音がする きらきら音がする  
きらきら音がする きらきら音がする

みんなの音が 集まると どんな音に なるのかな  
きらきら音がする きらきら音がする  
きらきら音がする きらきら音がする

すてきな にじいろ ハーモニー

6 (3) 本時展開

時間	学習活動	指導上の留意点		備考
		A	B	
2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじまりの挨拶</li> <li>・学習内容の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●T1は全員が揃うまで、ピアノで静かにBGMを弾き、落ち着いた雰囲気をつくる。</li> <li>○入室したクラスから、各自椅子を持って来て座る。</li> <li>○はじまりの挨拶をする。</li> <li>○本時の流れを知る。</li> <li>●T2はホワイトボードを使い、本時の流れを説明する。</li> <li>●T3～T9は、児童が挨拶や学習内容の確認に気持ちを向けることができるように、小さな声で言葉かけしたり、身体支援をしたりして、T2に注目を促す。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・可動式ホワイトボード</li> </ul>
3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌『うたおう』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ピアノに合わせて、『うたおう』の歌を歌う。後半部分は教室内を行進しながら歌う。</li> <li>●T2は、全体を見渡しながらか、呼びかけるように元気に歌う。後半部分は、拍を意識できるように、腕を振ってリズムカルに行進する。</li> <li>●T3～T9は、一緒に行進しながら楽しい雰囲気をつくったり、座ったまま音楽を聴いている子に行進を促したり、寄り添ったりする。ピアノの音に耳を傾けながらゆったりとした気持ちで着席できるようにするために、歌い終わってから着席するまでの間は、できるだけ言葉かけ支援を減らす。</li> <li>●T1は、児童の行進を促すように軽やかに伴奏を弾く。歌い終わってから着席するまでの間は、児童が歌の余韻を感じながら着席できるように、音量とテンポを落としてBGMを弾く。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノ</li> </ul>
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌『おーい小低さん』</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>『やまびこごっこ』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ピアノに合わせて、『おーい小低さん』を歌う。</li> <li>手拍子や挙手の動作模倣をしたり、呼名(「1年生!」「2年生!」)に対して返事をしたりする。</li> <li>●T2は、大きな動作で見本を見せ、模倣を促す。</li> <li>●T1は、児童の反応を見て、伴奏のテンポや間を調整しながら伴奏を弾く。</li> <li>●T3～T9は、元気な声と身振りで楽しい雰囲気をつくり、児童の気持ちを盛り上げる。</li> <li>○T2と「おーい!」「やっほー!」等の言葉のかけ合いをする。数回繰り返した後、ピアノに合わせて『やまびこごっこ』を歌う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノ</li> <li>・歌詞カード</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>●T2は、児童が発声しやすい言葉を選んで「おーい！」「やっほー！」「はーい！」等と呼びかける。声の大きさや呼びかける言葉を変えながら数回繰り返す。呼びかけや歌の場面では、口を大きく開けてメリハリのあ る歌い方と大きな身振りで歌い、発声や動作模倣を促す。</li> <li>●T1は、児童の反応を見て、伴奏のテンポや間を調整しながら伴奏を弾く。かけあいを促すために、 ピアノもフレーズを繰り返すように伴奏を弾く。</li> <li>●T3～T9は、元気な声と身振りで楽しい雰囲気をつくり、児童の気持ちを盛り上げる。</li> </ul>	
25分	<p>・ 器楽 『にじいろハーモニー』</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●T1、T2は、長机・ベル・布ベンチ・キーボードを準備する。</li> <li>●T1は、歌の一部を歌いながらベルをたたき、児童の気持ちを活動に惹きつける。</li> <li>○前半に演奏する9名は、布ベンチに移動して座る。(●T3、T4、T5、T7は、児童と一緒に移動する。)</li> <li><b>※抽出児童A:前半チームの赤いベル(予定) 児童B:前半チームの水色のベル</b></li> <li>○赤チームのみ起立し、♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪のリズムを練習する。</li> <li>●T1は、T2の動きに合わせて一緒にベルをたたいてみるよう促す。児童が拍を意識してベルをたたくことが できるように、キーボードで♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪ のリズムの伴奏を繰り返す。</li> <li>●T2は、「タンタンタンタン タンタンタン パッ」と歌いながら見本を見せる。</li> <li>●T3、T4、T5、T7も「タンタンタンタン タンタンタン パッ」と一緒に歌う。模倣ができる児童には、T2への注 目を促す。必要に応じて、手を添えて一緒にベルをたたいたり、児童の肩を軽くたたいてリズムを伝えたりし て身体支援をする。</li> <li>○同様に、黄色チーム、水色チームも ♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪ のリズムを練習する。</li> <li>○はじめから一曲通して演奏する。</li> <li>●T2は、「かまえのポーズ、手は肩！」と言葉かけて、「かまえのポーズ」を促す。</li> <li>●T1は、演奏している9名を見渡して歌いながら伴奏を弾く。準備が間に合わない児童がいた場合は、即興 で間奏を弾いて時間を確保する。</li> <li>●T3、T4、T5、T7も「タンタンタンタン タンタンタン パッ」と一緒に歌う。模倣ができる児童には、T2への注 目を促す。必要に応じて、手を添えて一緒にベルをたたいたり、児童の肩を軽くたたいてリズムを伝える等の 身体支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞カード</li> <li>・デスクベル</li> <li>・長机</li> <li>・布ベンチ</li> <li>・キーボード</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>●安心して活動に取り組めるように、児童の様子に応じて、手をつないで移動したり、横に座ったり、背中に手を添えたりして寄り添う。</li> <li>●演奏時には、音楽と一緒に心地よく拍を感じることができるように、拍に合わせて背中をやさしくたたく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●T2に注目できるように、適宜、言葉かけや指さしの支援をする。また、休符を意識できるように、「タンタンタン タンタンタン パッ」の口伴奏に強弱をつける。</li> </ul>	
		<p>○後半チームと交代し、後半チームが同様に、①リズム練習 及び ②一曲通して演奏する。</p> <p>●T1は、児童の気持ちをつなぎ、盛り上げる支援として、前後半の入れ替え時に小さな音でBGMを弾く。</p>		
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体表現</li> <li>『世界のピース！』</li> </ul>	<p>○教師の見本を見る。（T2は、CD操作も担当する）</p> <p>●T1・T2は、児童の前に出て1番を踊る。大きくメリハリのある動きで踊り、楽しい雰囲気をつくる。</p> <p>○曲に合わせて踊る。</p> <p>●T1～T9は、大きな動作で手本となって踊り、児童の模倣を促す。ダンスの振り付け通りに踊るだけでなく、音楽の雰囲気を感じ取りながら身体を揺らしたりジャンプしたりしている児童がいたら、そうした個々の表現を受け止め、共感しながら一緒に踊る。歩行不安定な児童には、背中側に立って姿勢を保持しながら左右の揺れを促す等の支援をし、安全面を確保する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・CD</li> <li>・CDデッキ</li> </ul>
4分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞</li> <li>『きらきらぼし』</li> <li>(デスクベル生演奏)</li> </ul>	<p>○自分が心地よく鑑賞できる位置へ移動し、教師の演奏を見る。</p> <p>●T2はデスクベルの演奏、T1はピアノ伴奏を担当する。響きのあるベルの音色に集中できるように、ゆっくりとしたテンポで演奏する。ピアノは音量を落とし、メロディー部分はベルの音のみになるように、メロディーを弾かない伴奏にする。</p> <p>●T3～T9は、児童がゆったりとした気持ちで鑑賞に注目できるように、言葉かけ支援はできるだけ減らして、児童が安心した気持ちで鑑賞できるように寄り添う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・デスクベル</li> <li>・ピアノ</li> </ul>
1分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おわりの挨拶</li> </ul>	<p>○おわりの挨拶をする。</p> <p>●T2は、鑑賞の余韻を保ちながら落ち着いた気持ちで挨拶できるように、静かな声で号令をかける。</p> <p>●T3～9は、児童が挨拶に気持ちを向けることができるように、T2に注目を促す。</p>		

